

# 再編

# 経済学部 3学科制

国内で最も長い歴史を誇る本学経済学部。創立140周年を機に、「現代経済学科」と「生活環境経済学科」と既存の「国際経済学科」の3学科として新たに生まれ変わる。

複雑化する現代社会では、「グローバルな視点」と「ローカルな視点」の両方を持ち、バランスを取りながら経済社会の問

題を解決する人材の育成が求められている。また、経済学の世界では理論の精緻化が進み、経済理論の応用分野が広がっている。

3学科制とすることで、学生が自分の興味関心や将来の展望に合わせ、より目的意識を持って学べることを狙いとしている。新2学科につながる学びについて、教員や学生に聞いた。

## 生活者目線で問題を読み解く

### 生活環境経済学科



長尾ゼミ「都市・地域経済」

「雇用労働」「福祉」「環境」「都市・地域」「ジェンダー」をキーワードに、経済問題を自分の仕事や暮らしに直接関わ

る課題として捉えつつ、多様な視点から読み解いていく。  
「グローバル化と言われるが、個人の生活抜きには経済は語れない。グローバルかつローカルに考え、行動することが肝要」と話すのは長尾謙吉教授(都市経済論)。長尾ゼミで、地域における未婚率の違いについて調べている小山優人さん(3年次)は「都市と地方を比較するとき、都市の成功例を当てはめるだけではいけないことがある」とうなずく。  
武井基樹さん(3年次)は「長尾大知彦准教授(ドイツ経済史)の授業で経済と労働の歴史を学び、資本主義経済について見識を深めた。同時に「過去の事実についてたくさんの方が存在し、正解は一つではないことを知った」。

「大学に入る前は難しい印象だった経済だが、自分が生きている世界で起こっている問題を学ぶことだと捉えるようになった」と4年間の学びを、自信を持って振り返る。  
「グローバル化と言われるが、個人の生活抜きには経済は語れない。グローバルかつローカルに考え、行動することが肝要」と話すのは長尾謙吉教授(都市経済論)。長尾ゼミで、地域における未婚率の違いについて調べている小山優人さん(3年次)は「都市と地方を比較するとき、都市の成功例を当てはめるだけではいけないことがある」とうなずく。  
武井基樹さん(3年次)は「長尾大知彦准教授(ドイツ経済史)の授業で経済と労働の歴史を学び、資本主義経済について見識を深めた。同時に「過去の事実についてたくさんの方が存在し、正解は一つではないことを知った」。



柘田准教授「西洋経済史」

## 理論と統計で経済社会を分析

### 現代経済学科



奴田原教授「マクロ経済学」

現代経済学科では、世界に通用する経済理論と実証分析のツールとしての統計学を学ぶ。1年次から4年次まで、入門から応用まで段階的に学び、系統的な学

修ができる。遠山浩教授(中堅企業論)は「現実の経済社会を理解し、そこで生きていくためには基礎・基本が重要。自由な発想は歓迎するが、裏付けはしっかりしないとけない」と語る。  
「ミクロ・マクロ経済学など、最初は難しかったが、段階を追うことに理解が深まっている」と手応えを感じるのは岡部奈々さん(2年次)。  
行政や企業では近年、客観的な証拠に基づき政策決定(EBP)が求められており、現代経済学科では、学生が経済政策、企業産業、金融などの現状を理解したうえで、こうしたデータによる分析手法も身につける。岡部さんとともに奴田原健悟ゼミに所属する日根拓真さん(3年次)は「数字を用いて客観的に物事を読み解くことで経済や社会を見る目が養われる」と実感する。  
遠山ゼミで川崎市や地方でフィールド調査を行っている齋藤太輝さん(3年次)は「企業や地方の方に対するときで

もデータは重要」と話す。  
奴田原教授(マクロ経済学)は「経済理論をベースに幅広い応用科目を展開し、広い視野で実証的に分析する力をつけていく」と語る。  
「現代経済学科では、世界に通用する経済理論と実証分析のツールとしての統計学を学ぶ。1年次から4年次まで、入門から応用まで段階的に学び、系統的な学



遠山ゼミ「地域における中堅・中小企業」

# 移転

# 商学部が神田へ

商学部の神田キャンパス移転について、渡辺達朗学部長と、タレントの上田まりえさん(平21文)が対談した。一部を掲載する(全文は「朝日新聞デジタル」QRコードに掲載)。



## 恵まれた立地

上田 ビジネスオフィスに囲まれた神田キャンパスは、商学部にとっては非常に良い立地なのではないでしょうか？

渡辺 商学部にはマーケティング学科と会計学科があります。が、神田はどちらにとっても非常に恵まれた立地だと思います。移転が決まった段階で地域の商店街や町会の方々へあいさつに行き、すでに一部で交流が始まっています。私のゼミでは、九段下から秋葉原の手前辺りの「靖国通り商店街連合会」を応援するFacebookやTwitter、公式ホームページなどインターネットで店舗やイベントに関する情報発信で協力することになりました。

上田 それは、商店街の方々にとっても助かりますね。地域外の方から反応があるのでは？

渡辺 例えば、アニメのキャラクターの実家の元ネタで「聖地巡礼」先として知られているお店について、学生がインターネットSNSにアップしたところ、予想外に多くの人から「いいね！」をもらいました。学生には発想や企画力次第でいろいろ工夫ができるということとを学んでほしいです。

## 3学科で連携

上田 商学部として、中長期的なプランはありますか？

渡辺 以前からですが、商学部には三つの軸があり、その一つが地域とのつながりです。これまで川崎市などで多数の教員が学生とともに活動し、社会貢献もしてきました。二つ目は国際展開です。現在は特にアジアの国々との関係を深めています。が、神田キャンパスでは国際コミュニケーション学部と相互に協力することでさらに強化していくと思っています。そして三つ目は、会計士や税理士などの資格を含めた会計専門職人材の育成です。神田という立地を生かして、資格取得にはさらに力を入れていく予定です。AIの普及を前提とした次世代型の会計専門職を育てていくことが大事だと思います。



上田さんと対談する渡辺学部長(右)

上田 法学部、国際コミュニケーション学部との相互乗り入れ

科目もあるそうですね。  
渡辺 民法、会社法等は会計学科にとってはメインの科目になりますし、マーケティング学科の学生も取引に関わる法律を知らないと思わぬ落とし穴にはまることがあります。従来の商学部にも授業はありますが、より専門性の高い知識を身につけたければ法学部の授業が役立つでしょう。逆に、法学部で会計専門職を志望している学生にとっては、簿記を学ぶのに商学部の授業が役立ちます。また、国際コミュニケーション学部との関係では、商学部からビジネス英語の授業を開講しますし、商学部の学生にとっては国際的な文化や慣習を学ぶ、よい機会が得られるようになります。

## 面白さを実感

上田 他学部の視点から自分の学部を見ると、自分の専門分野の面白い部分を再発見できそうですね。では、最後に受験を考えている高校生へメッセージをお願いします。

渡辺 商学部では、最初は幅広い内容を学びながら、学生自らの希望に応じて専門的に学ぶ分野を絞っていくカリキュラムを採用しています。また将来が漠然としている人でも、自ら主体的に学びたいという意欲があれば、大学での学修や生活の面白さが実感できるような環境を考えます。ぜひ多様な皆さんに神田の地で社会や地域の課題を発見し解決に取り組んだり、資格取得に励んだりする仲間に加わってほしいと思います。

2020年度新学部開設／学科再編／学部移転

学びはさらに深く、広く